プラズマアシスト燃焼を用いた ガス二元燃料エンジンにおける 燃焼特性

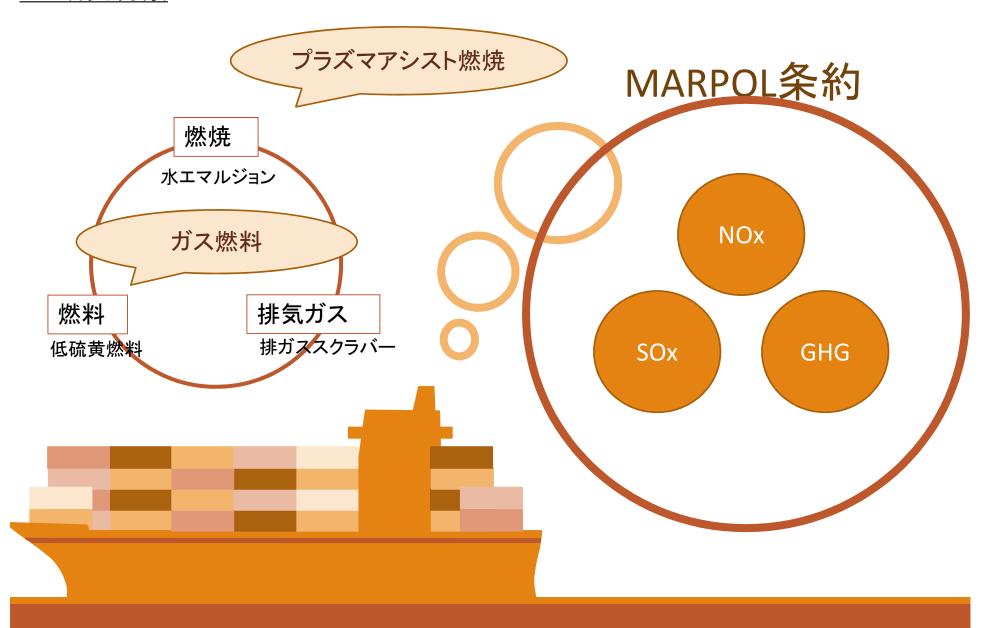
神戸大学 海事科学部

マリンエンジニアリング学科 機関マネジメントコース 内燃機関工学研究室 中原 亜梨沙

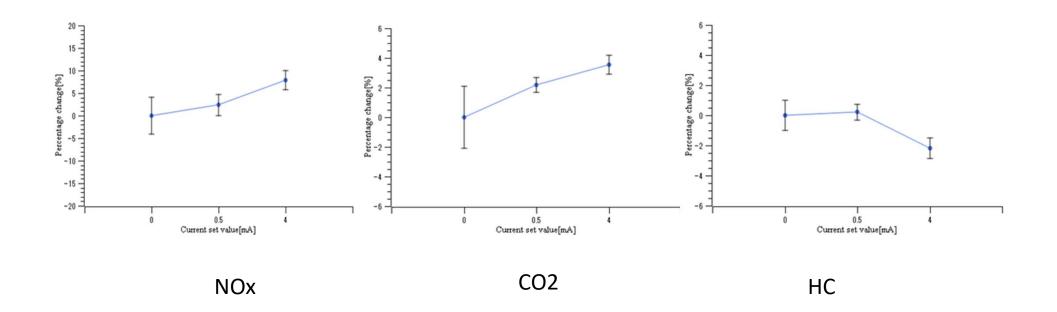
- 1.序論
 - 1.1 研究背景
 - 1.2 先行研究
 - 1.3 研究目的
- 2.二元燃料エンジンとは
- 3.プラズマアシスト燃焼とは
- 4.二元燃料エンジンでの放電実験
- 5.二元燃料エンジンでの放電実験結果
- 6.まとめ

- 1.序論
 - 1.1 研究背景
 - 1.2 先行研究
 - 1.3 研究目的
- 2.二元燃料エンジンとは
- 3.プラズマアシスト燃焼とは
- 4.二元燃料エンジンでの放電実験
- 5.二元燃料エンジンでの放電実験結果
- 6.まとめ

1.1 研究背景



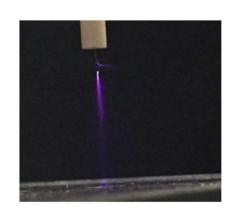
<u>1.2</u>先行研究



天然ガス噴霧時間2[ms]での二元燃料エンジンの排ガス特性

1.3研究目的

将来的なプラズマアシスト燃焼の 運用実現を目指して





- 二元燃料運転での最適な運転条件の発見 天然ガス噴霧量 / 放電電流値を変化
- 軽油運転時との性能の比較



- 1.序論
 - 1.1 研究背景
 - 1.2 先行研究
 - 1.3 研究目的
- 2.二元燃料エンジンとは
- 3.プラズマアシスト燃焼とは
- 4.二元燃料エンジンでの放電実験
- 5.二元燃料エンジンでの放電実験結果
- 6.まとめ

2.二元燃料エンジンとは

液体燃料(軽油など)



気体燃料(天然ガスなど)

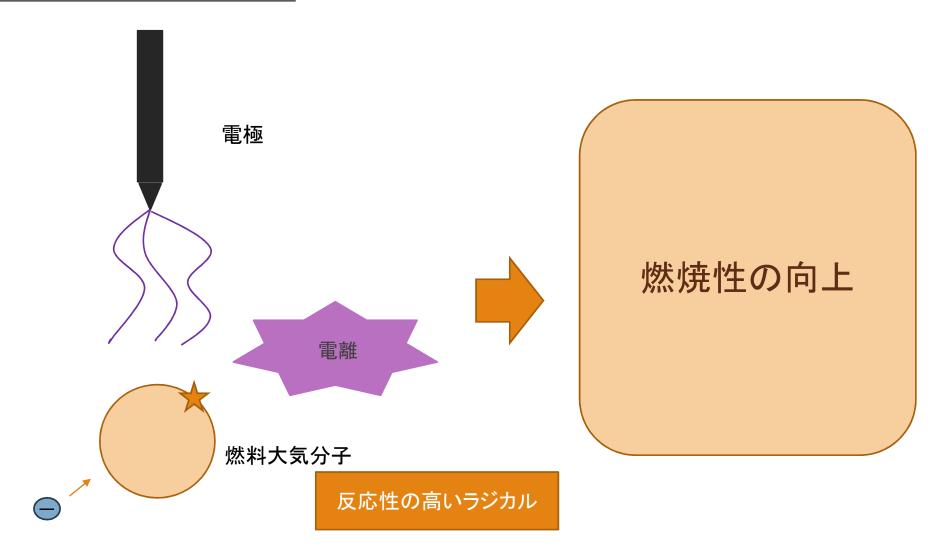
天然ガスは硫黄分を含まない

排ガス中のSOxの削減が可能



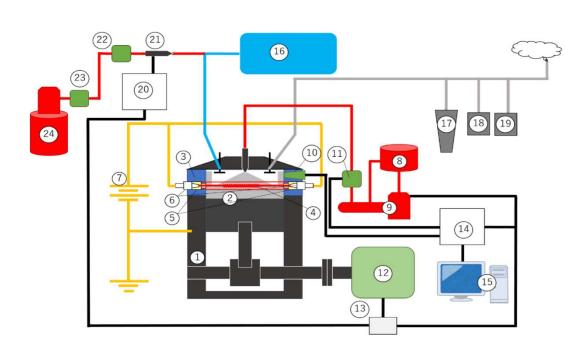
- 1.序論
 - 1.1 研究背景
 - 1.2 先行研究
 - 1.3 研究目的
- 2.二元燃料エンジンとは
- 3.プラズマアシスト燃焼とは
- 4.二元燃料エンジンでの放電実験
- 5.二元燃料エンジンでの放電実験結果
- 6.まとめ

3.プラズマアシスト燃焼とは



- 1.序論
 - 1.1 研究背景
 - 1.2 先行研究
 - 1.3 研究目的
- 2.二元燃料エンジンとは
- 3.プラズマアシスト燃焼とは
- 4.二元燃料エンジンでの放電実験
- 5.二元燃料エンジンでの放電実験結果
- 6.まとめ

4.二元燃料エンジンでの放電実験 実験用エンジン



-燃料ライン -- 吸気ライン -- 排気ライン -- 放電配線 -- 計測・制御配線

①供試機関

⑧燃料タンク

②電極挿入用 ピストンクラウン

4高電圧電極

⑦高電圧電源

⑤絶縁スリーブ

③電極挿入用延長

9コモンレール

燃料噴射システム

⑩筒内圧センサ

シリンダブロック ①燃料噴射圧センサ (12)電気式動力計

③ロータリエンコーダ

Arduino ⑥高電圧導入プラグ ⑭データロガー

② 圧力調整器

(15)パソコン

16吸気サージタンク

⑪ポータブル排ガス分析器

⑱自動車用排ガス分析器

(19)煙度測定器

20インジェクタードライバと

②気体流量計

②気体燃料用インジェクター

②4天然ガスボンベ

形式: 水冷横型単気筒

4サイクルディーゼルエンジン

ボア×ストローク[mm]: 92×96

排気量:0.639L

圧縮比:11.39(電極設置用改造後)

連続定格出力: 8.1kW/2400rpm(カタロ

グ値)

最大出力: 9.2kW/2400rpm (カタログ

値)

噴射ポンプ: コモンレール方式

噴射ノズル: 4孔式

開弁圧:16.7MPa

閉弁圧: 13.36MPa (開弁圧の80%)

軽油:直接噴射式 燃料噴射方式 天然ガス:ポート噴射式

吸気方法 自然吸気

4.二元燃料エンジンでの放電実験 使用電極

陽極:ねじ棒 M3×135[mm]

陰極:インコネルチューブ

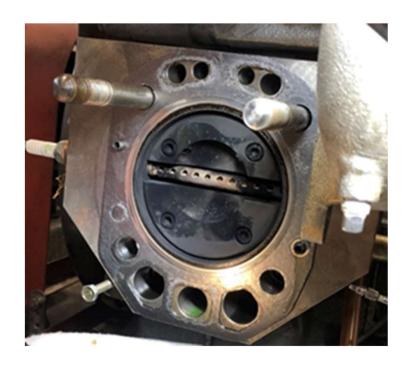
外径 10[mm] 内径 8[mm]



陽極※



陰極※



シリンダブロック※※

※出典:2021 山名 プラズマ支援燃焼適用に向けた高圧下での放電現象測定

※※出典:2021 都築 低温プラズマを燃焼室内で放電させる試みとその特性

4.二元燃料エンジンでの放電実験 実験条件・計測項目

表1. 実験条件

運転条件	軽油運転							
回転数 [rpm]	2000							
負荷[kW]	1.5							
電流値 [mA]	0	0.1	0.3	0.5	1.0	2.0	3.0	4.0
軽油噴射時期[°]	$\mathrm{BTDC14}^{\circ}$							
運転条件	二元燃料運転							
回転数 [rpm]	2000							
負荷[kW]	1.5							
電流値 [mA]	0	0.1	0.3	0.5	1.0	2.0	3.0	4.0
軽油噴射時期[゜]	$\mathrm{BTDC14}^{\circ}$							
天然ガス 噴射時期 [°]	${ m ATDC38.5}^{\circ}$							
天然ガス 噴射時間 [ms]	2.0/3.0							

計測項目

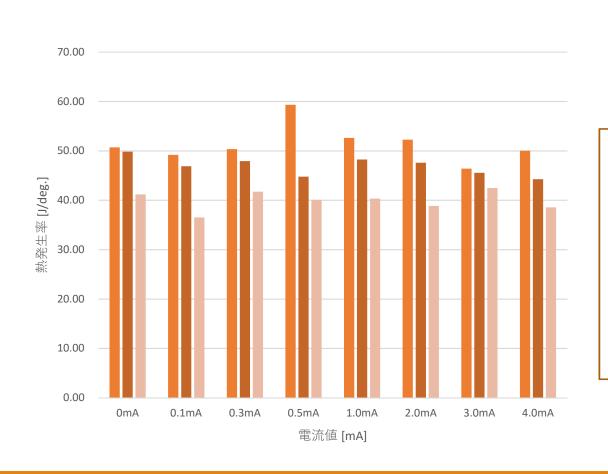
機関:機関回転数[rpm]、制動荷重[kg]、吸気温度[°C]、排気温度[°C]、筒内圧履歴[MPa]、燃料圧力履歴[MPa]、消費燃料[mL/h]

吸気: 気温[°C]、大気圧[hPa]、湿度[%]、 吸気圧力[kPa]、吸気オリフィス差 圧[kPa]

排気: HC[ppm]、CO[ppm]、NOx[ppm]、 O₂[%]

- 1.序論
 - 1.1 研究背景
 - 1.2 先行研究
 - 1.3 研究目的
- 2.二元燃料エンジンとは
- 3.プラズマアシスト燃焼とは
- 4.二元燃料エンジンでの放電実験
- 5.二元燃料エンジンでの放電実験結果
- 6.まとめ

熱発生率



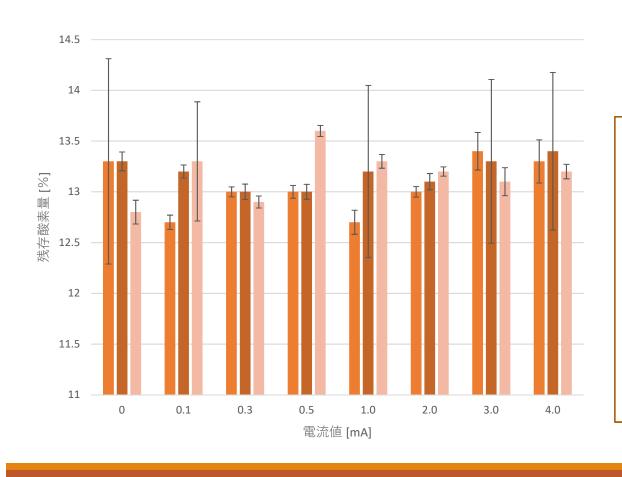
- 軽油運転
- ■二元燃料運転(2ms)
- □ 二元燃料運転(3ms)

軽油運転 0.5[mA]~2.0[mA]で<mark>燃焼性改善</mark>

- 二元燃料運転(2ms)
- 二元燃料運転(3ms)

燃焼不安定

残存酸素量



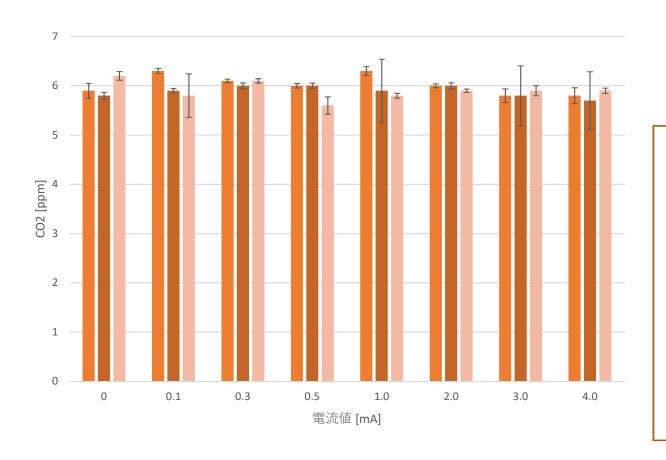
- ■軽油運転
- 二元燃料運転(2ms)
- □ 二元燃料運転(3ms)

軽油運転 0.1[mA]~2.0[mA]で<mark>燃焼性改善</mark>

二元燃料運転(2ms) 0.1[mA]~2.0[mA]で<mark>燃焼性改善</mark>

> 二元燃料運転(3ms) 燃焼性悪化

 CO_2



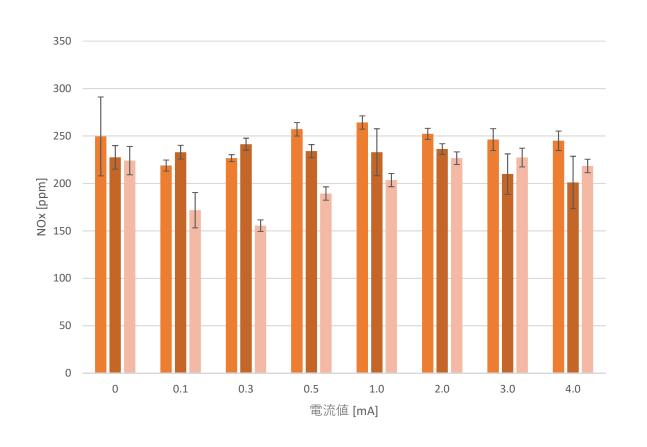
- ■軽油運転
- 二元燃料運転(2ms)
- □ 二元燃料運転(3ms)

軽油運転 0.1[mA]~2.0[mA]で 燃焼性改善

二元燃料運転(2ms) 0.1[mA]~2.0[mA]で 燃焼性改善

二元燃料運転(3ms) 燃焼性悪化

NOx



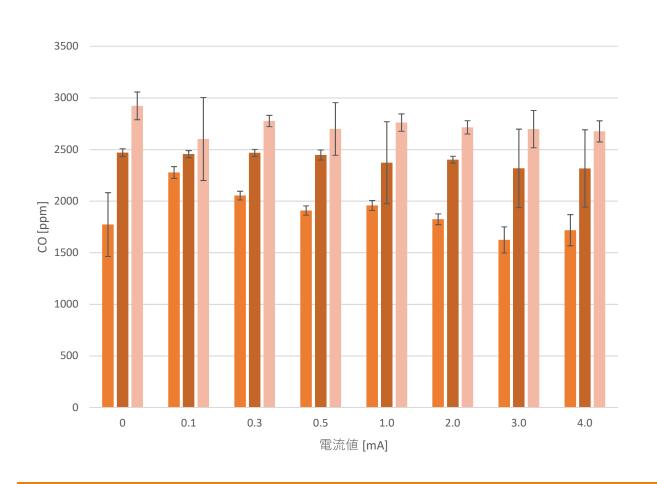
- 軽油運転
- ■二元燃料運転(2ms)
- □ 二元燃料運転(3ms)

軽油運転 0.5[mA]~2.0[mA]でNOx<mark>増加</mark>

二元燃料運転(2ms) 0.1[mA]~2.0[mA]でNOx増加 加 But熱発生率低下

> 二元燃料運転(3ms) NOx減少

CO

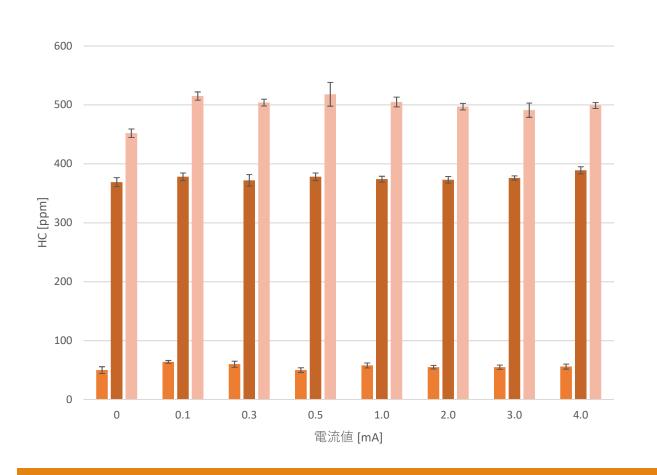


- 軽油運転
- 二元燃料運転(2ms)
- □ 二元燃料運転(3ms)

- 二元燃料運転(2ms)
- 二元燃料運転(3ms)

電流值增加→CO濃度減少

HC



- ■軽油運転
- ■二元燃料運転(2ms)
- □ 二元燃料運転(3ms)

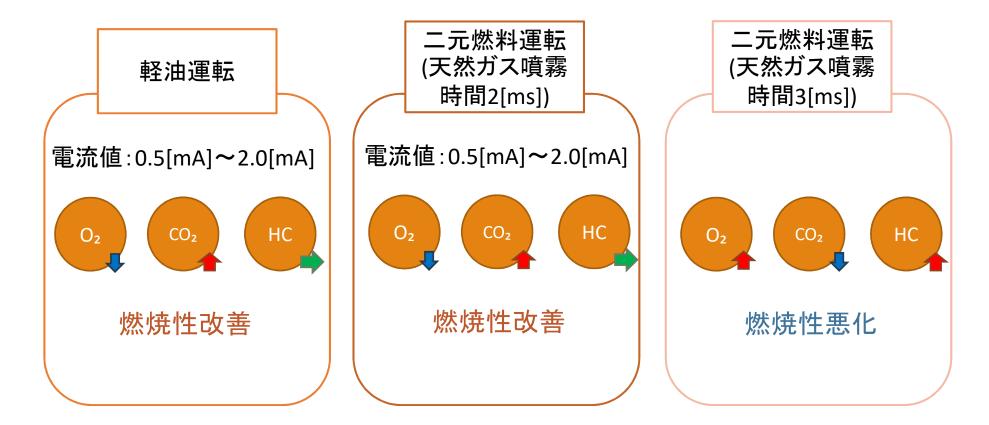
軽油運転 電流値<mark>増加→</mark>HC濃度 わずかに<mark>増加</mark>

二元燃料運転(2ms) 電流値増加→HC濃度 わずかにに増加

二元燃料運転(3ms) 電流値増加→HC濃度増加

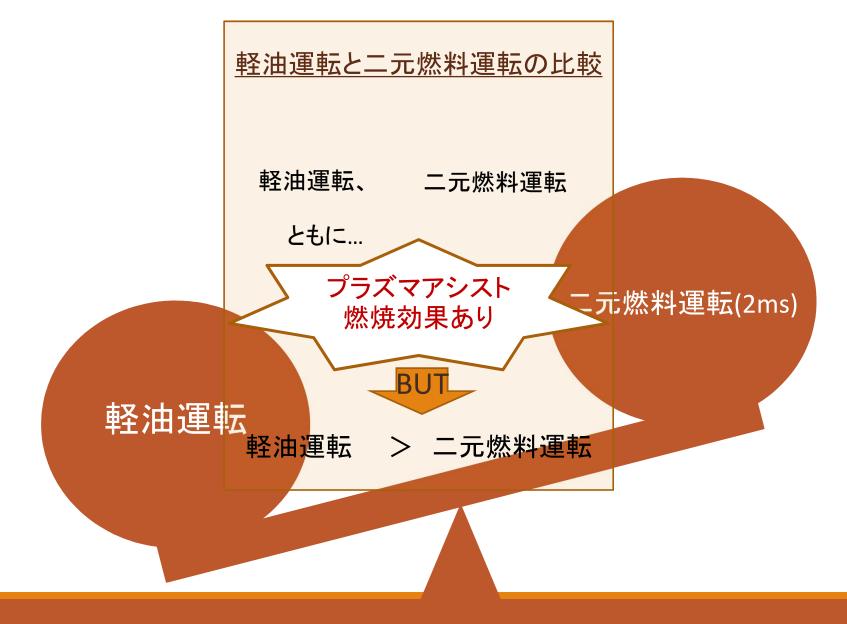
- 1.序論
 - 1.1 研究背景
 - 1.2 先行研究
 - 1.3 研究目的
- 2.二元燃料エンジンとは
- 3.プラズマアシスト燃焼とは
- 4.二元燃料エンジンでの放電実験
- 5.二元燃料エンジンでの放電実験結果
- 6.まとめ

<u>6.まとめ</u>



電流値を上げすぎると燃焼が不安定に

6.まとめ



6.まとめ

今後の方針

- 放電の安定化/スパーク発生の防止
 - ➡ 比較的低圧な排気管や吸気管で放電
 - ➡ 電極形状の改善 ナットが動かないような工夫
- 計測条件を絞り、計測回数を増やす
- 天然ガスの代わりに水素燃料を使用



実験用電極(陽極)

ご清聴ありがとうございました

<u>6.まとめ</u>